

新入社員研修の実施動向

2022年度速報版

※この資料は弊社がお取引先様に向けて作成した資料です。
※貴社内以外への開示、無断転載等は禁止させていただきます。



株式会社ホスピタリティエージェント

2022年度新入社員研修の実施状況

【データ抽出条件】

- ・弊社内データベースより、各年4月で「新入社員研修」に該当するものを抽出しています。
- ・数値は計上ベースで最終数値とは異なる場合があります。
- ・参考数値ですので、データ元の開示はできません。

2022年度 新入社員研修 概況

2022年度は研修担当者様にとって、コロナ禍で3回目となる新入社員研修となりました。

新型コロナ発生直後の2020年度、新入社員研修担当者様は情報収集と対応に追われ、開催中止や不慣れなオンラインでの研修に移行せざるを得ない状況となりました。施設のキャンセル手続に関しても、多くのトラブルがあり、多額のキャンセル料を支払わなければならなかった企業もありました。

その後、入社者の声を受けて、新入社員研修はリアルでの開催を要望されるご担当者が多くいらっしゃいましたが、翌年も感染は収まらず、2021年度は多くの企業がオンラインで新入社員研修を行っています。

ようやく落ち着きを見せた2022年度、リアル回帰の気運は高まり、12月までは弊社でもコロナ前の2019年を上回る勢いで新入社員研修の予約を頂いておりましたが、年が明けて発生したオミクロン株の影響を受けて、結果的にコロナ前の7割程度の手配にとどまりました。

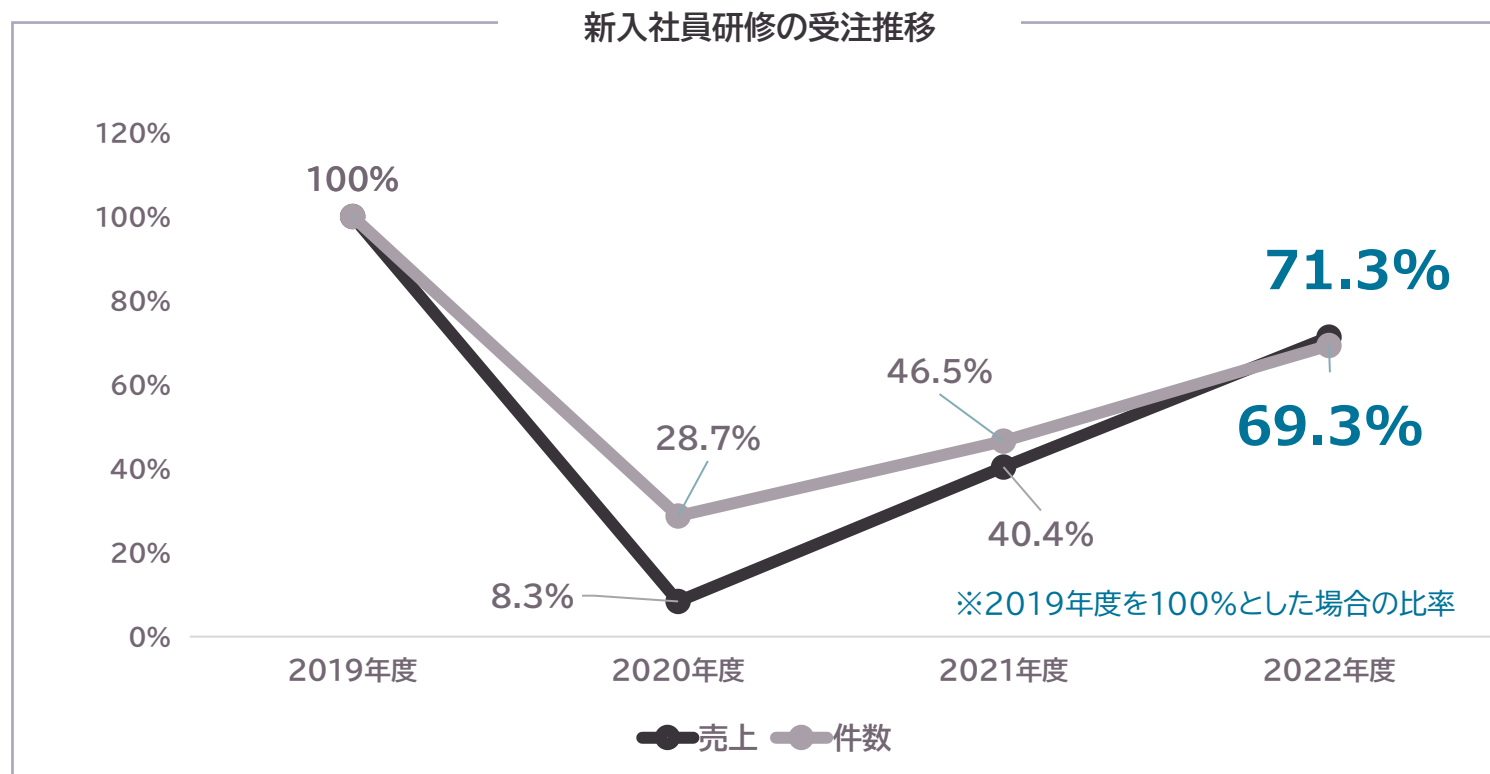
本資料は、2022年度に弊社が手配をした新入社員研修について、速報値としてデータを集計し分析をしたものです。

次年度の新入社員研修や、今後の集合研修を開催するためのお役に立てば幸いです。

新入社員研修手配はコロナ前の「約70%」まで回復

2022年度の新入社員研修はコロナ前の2019年度と比較して70%程度まで回復した。
1月に感染拡大したオミクロン株の影響がなければ、2019年度を上回った可能性があった。

新入社員研修はリアル回帰の傾向が非常に強いと思われる。

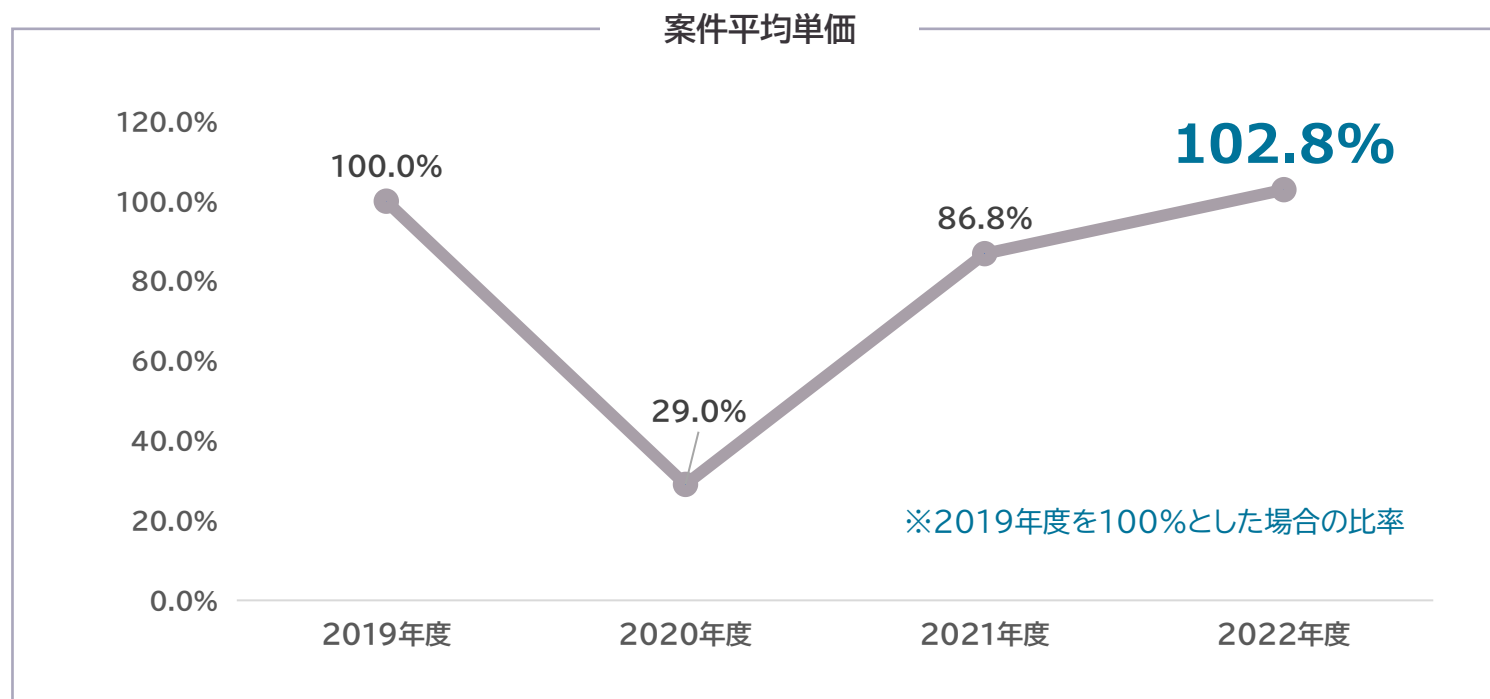


案件平均単価はコロナ前より「上昇」

2022年度の新入社員研修の案件平均単価は2019年度を上回った。

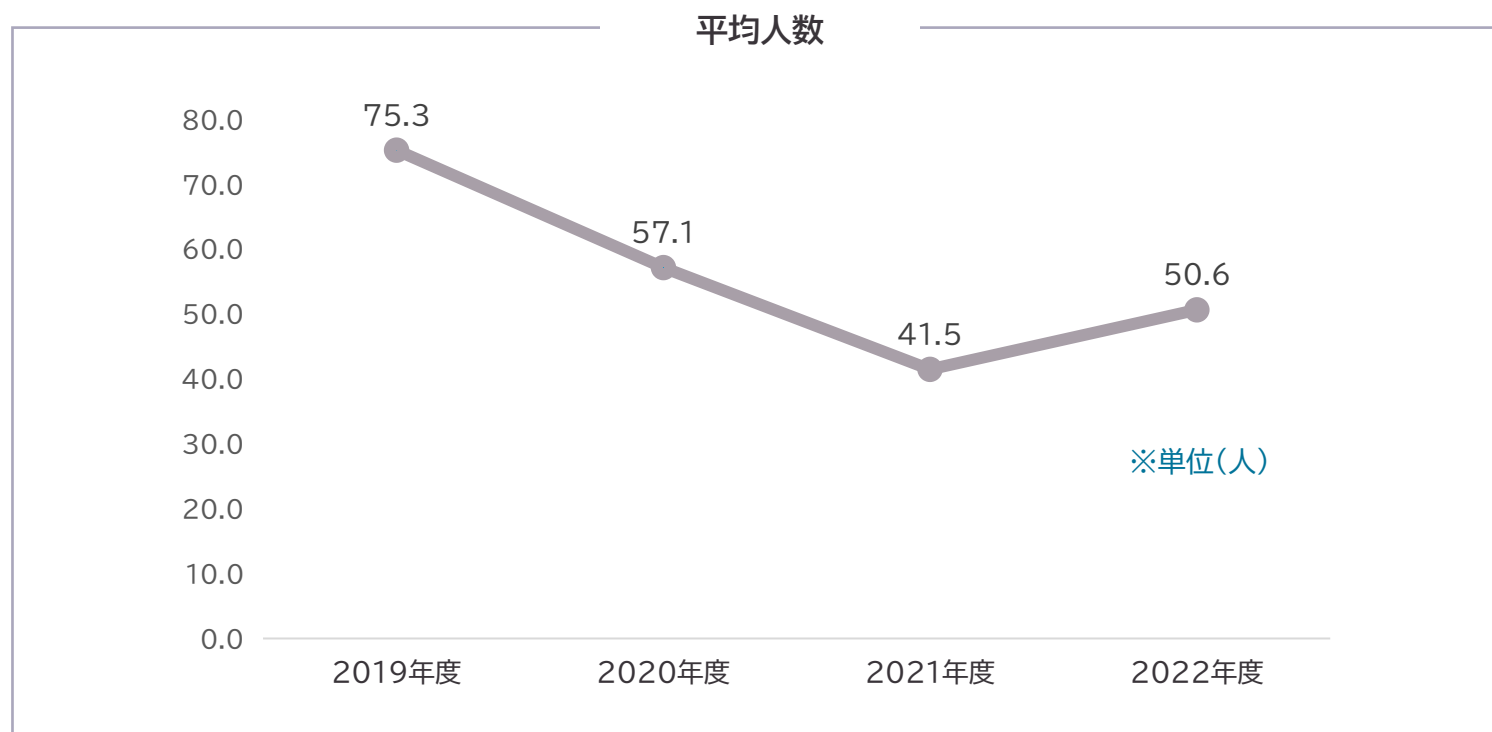
- ・感染予防のため、広めの会場を予約。
- ・宿泊はシングルを利用。(これまでツイン、トリプルだった企業もシングルに変更)
- ・施設を分割して開催。(東京一括開催→東京、大阪を分けて開催など)

などの要因が考えられる。



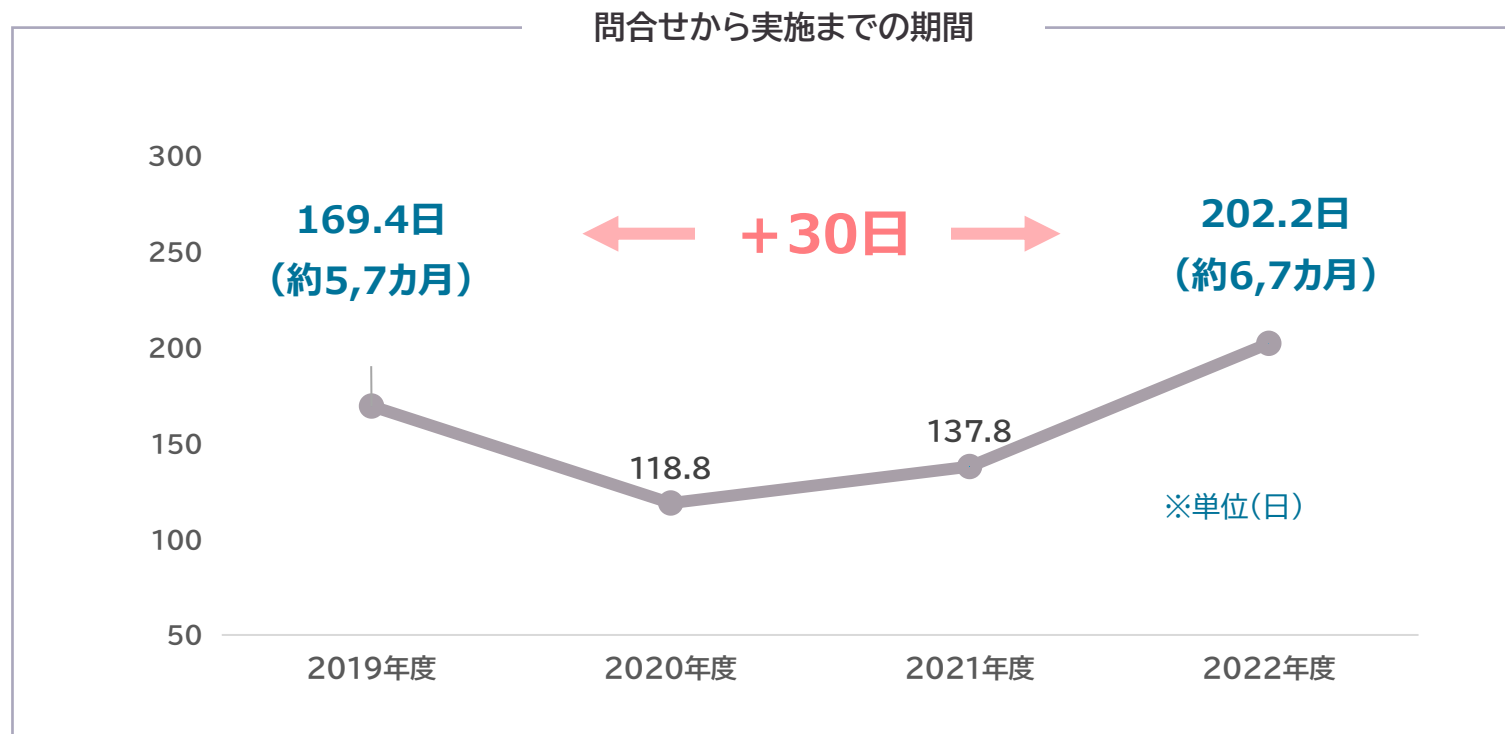
平均人数は「減少傾向」

採用人数の減少や分割開催により、1開催当たりの人数は減少傾向にある。
(弊社顧客の業種傾向による部分も大きいですが、集合研修の人数は全体的に減少傾向。)

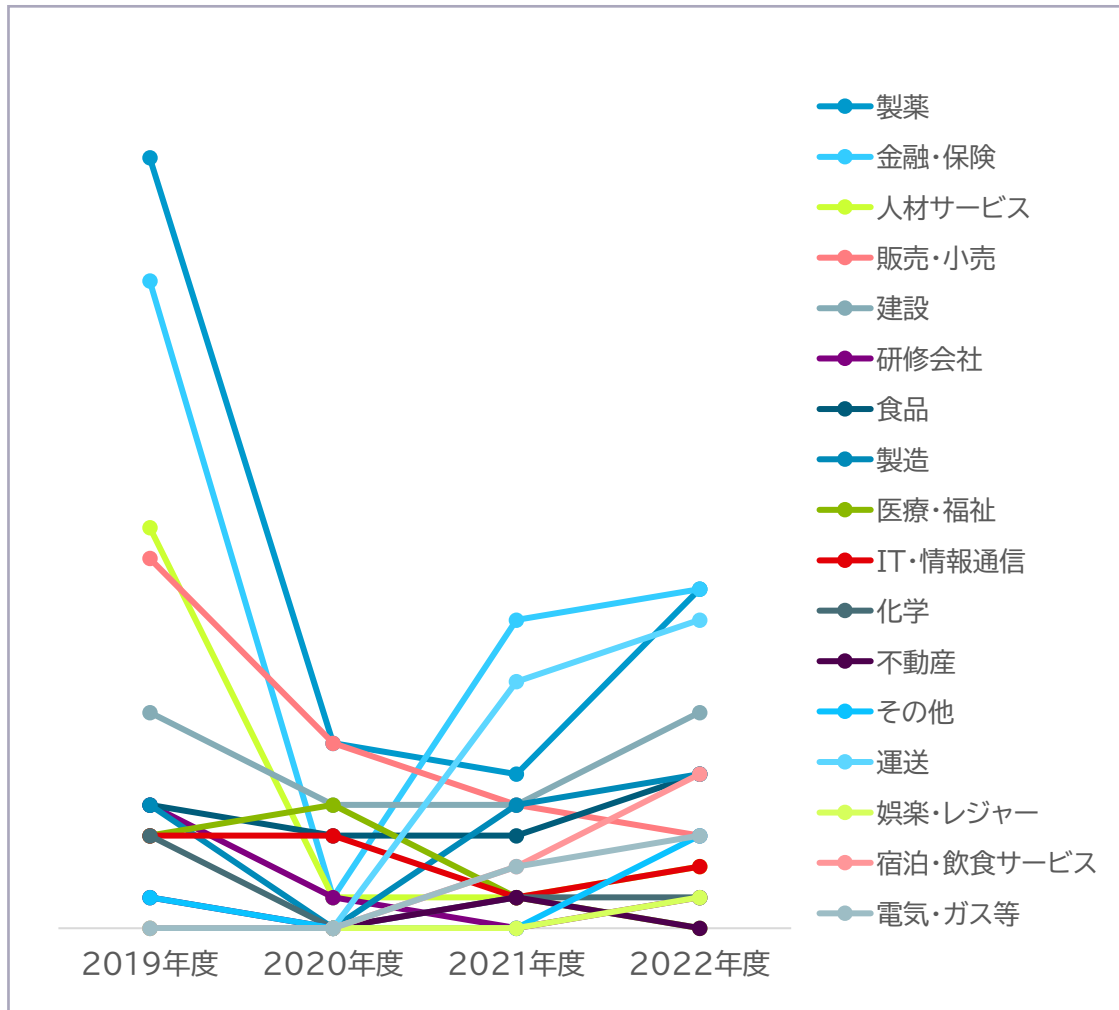


新入社員研修の「計画時期は早まった」

様々な要因から、新入社員研修の計画時期は早まってきている。
2023年度は集合研修開催需要の増加に加えて供給できる会場の減少が見込まれるため、更に早まる見込み。
特に採用数の変更や研修内容の変更などの予定がある場合などは、早めの動き出しが肝心となる。



業種別手配件数



2022年トップ3業種

- ・製薬
- ・金融
- ・運送

2019年(コロナ前)より 増えている業種

- ・運送
- ・製造
- ・食品
- ・宿泊、飲食サービス
- ・電気、ガス
- ・娯楽、レジャー

※弊社の営業戦略等にも依存する要素が大きい
ため、参考としてご覧ください。

2023年度 新入社員研修 動向予測

研修開催場所の確保がさらに困難になる見込み

以前から新入社員研修の開催場所の確保は例年争奪戦となっており、人気のある会場を予約することは難しい状況がありました。それに加えて、コロナ禍によって様々な要因が追加され、会場確保はますます難易度が上がる見込みです。例年よりも早めの研修計画の立案と会場の準備が求められます。

会場確保の難易度上昇の要因

- ◆ **ディスタンスのため、広めの会場を希望する企業が増加。**
感染予防のため広めの会場で実施するということがスタンダードになってきています。
- ◆ **会場数の減少や施設の人員不足による供給の減少。**
コロナ禍によって閉館してしまった施設や人員不足で運営ができない施設が増加しています。
- ◆ **観光やインバウンドなどの再開**
このまま進めば観光、インバウンドなどの再開でホテルなどの宿泊施設の稼働上昇が見込まれます。

研修開催にかかる費用が増加傾向

弊社のお客様データを見ても、1回の研修開催にかかる費用は増加傾向にあります。2023年度の新入社員研修は、例年以上に費用がかかることが予想されます。

ただし、コロナ禍によって集合研修の実施回数が減っている事実もありますので、年間の研修予算全体への影響は大きくないと思われます。

費用をかけるところはかける、といったメリハリのある予算確保が必要となります。

研修にかかる費用増加の要因

◆ 広い会場の確保が必要

感染予防のため広めの会場で実施するというのがスタンダードになってきています。

◆ 宿泊施設の稼働上昇

観光需要の回復により、宿泊施設の料金が上昇傾向にあります。

◆ 感染予防に関する準備費用

分割開催や、待機部屋の確保、移動手手段の確保など、感染予防に関する費用が増加傾向です。

感染リスクを考慮した開催方式を

リアルでの開催要望の強い新入社員研修ですが、開催方法を工夫することで感染リスクを減らすことができます。2022年度もいくつかの企業が分散開催を実施しており、リスク回避の観点から、今後もこのような形式が一般化すると思われます。

感染リスクを考慮した開催方法の例

◆ エリア分散型

従来の1局集中から、東西、主要都市で分散して開催をする。

◆ 日程分散型

前半オンライン後半集合研修、など日程を分散して研修を開催する。

◆ 会場分散型

同エリアで複数施設に分ける、または同施設で会場を分けるなど、接点を減らす。

—2023年度の新入社員研修を成功させるために—

コロナ禍によって新入社員研修を取り巻く環境は激変しており、研修ご担当者様の負担もますます増加していると思います。VUCAの時代と言われる世の中ですが、人財育成が企業における最重要項目であることは変わりありません。以下に2023年度の新入社員研修を成功させるためのポイントを3つ挙げさせていただきました。

1. 早めに計画をたてる

2023年の会場確保は難易度が上がります。
適切な予算計画をたてるためにも、早めの動き出しがポイントになります。

2. 情報収集をする

より自社の目的に合った研修を開催するために、開催方法や他社事例などの情報収集がポイントになります。

3. リスクに備える

感染リスク、災害リスクなど様々なリスクを低減できるように、事前に備えておくことがポイントになります。

ウィズコロナ時代に集合研修を開催するための準備やノウハウを掲載しています。

弊社寄稿：産労総合研究所刊「企業と人材」2022年1月号掲載

ウィズコロナ時代における集合形式での研修開催のヒント

<https://mitokoweb.com/recommend/salon/kigyousalon20220301/>



株式会社ホスピタリティエージェント

<https://hospitality-agent.co.jp/>
TEL. 03(5755)5510

運営サイト

BIZ@PO
ビズアポ

<https://bizapo.jp/>
小規模会議室予約サイト
「ビズアポ」

ビジネスに安心して利用できる会議室・ホテル会議室がオンラインで簡単に予約可能。会員募集中です！

MITOKO
by hospitality agent

<https://mitokoweb.com/>
情報発信サイト
「ミトコ」

企業研修やイベントなどに関する情報発信サイトです。研修の開催が決まったらまずはMITOKOをミトコ！

co-mit

<https://co-mit.jp/>
研修・合宿施設検索サイト
「コミット」

研修や合宿で利用できる宿泊施設の検索サイトです。全国の研修施設・ホテルなどを専門家目線で比較しやすく掲載。